

碁盤目状の古代都市がより明確に

禁野本町遺跡で百済寺北門跡から北へ延びる道路を発見

◎参考資料あり

9月1日～10月10日に禁野本町遺跡で実施した発掘調査で、7世紀後半に滅んだ朝鮮半島の古代国家「百済」の王族の末裔である百済王氏が築いたと推定される古代都市の南北街路の路面と西側溝が見つかった。百済王氏は、平安京を築いた桓武天皇を支えた渡来系の有力氏族。発見された路面と西側溝は奈良時代後半～平安時代初期(8世紀後半～9世紀前半頃)のもので、この南北街路は遺跡の南側にある百済寺北門跡からほぼ真北へ延びていた平安京の朱雀大路に当たるこの街のメインストリートの一部。これまでの調査で、この街路の北延長部や直交する東西街路の一部も確認しており、平安京や平城京と同様に碁盤目状の方形街区の都市があったと指摘されてきたが、今回の発見でその存在をより明瞭に裏付けた。

- ★ 百済寺跡(中宮西之町1)は国指定の特別史跡。大阪府内の特別史跡は百済寺跡と大坂城跡の2カ所のみ。百済寺は朝鮮半島南西部の古代国家「百済」の王族の末裔である百済王氏の氏寺と考えられている。寺院の塔堂の位置関係を表す伽藍配置は薬師寺や東大寺と同じ「2塔1金堂式」で、建物を支える土台部分などに当時の最先端の技術が使われており、官寺に匹敵する格の高さだったことが分かっている。
- ★ 禁野本町遺跡は百済寺跡から北に広がる奈良時代～平安時代中期の遺跡。これまで230回以上、今回の調査で239回目を数える発掘調査を行い、各所で建物や井戸、道路などの跡が多く見つかっている。街区と百済寺の方位などの共通性の高さから、百済寺を基点に平安京や平城京のような方形街区(碁盤の目のように敷かれた道路で形づくられたまち)が形成されていたのではないかと考えられていた。
- ★ 桓武朝には、宮城県にある多賀城や三重県にある伊勢の斎宮等の国の施設が方形街区で整備されたことが近年の発掘調査等で明らかになっている。百済王氏の都市が方形街区で整備されていたことから同氏と桓武天皇の関係の深さが窺い知れる。また、桓武天皇は母親が百済系氏族の「和氏(やまとし)」出身だったこともあり、「百済王らは朕の外戚」と言うほど信頼を寄せていた。文献には桓武天皇がたびたび枚方がある交野郡で鷹狩りや天神を祭る儀式を行った記録が残されている。

(次ページへ)

- ★ 今回の発掘調査は住宅開発に先立ち9月1日～10月10日に実施。9月30日に地元向けの現地説明会を開催した。現在は住宅工事中。開発地（約1,700㎡）内の2カ所で調査（北側の調査区：158㎡、南側の調査区：59㎡、合計：217㎡）を実施し、両調査区で奈良時代後半～平安時代初期の南北街路の路面（検出長約2m）と西側溝（最大幅3m、深さ20cm）を発見した。これまでの調査で、この街路の北延長部などが見つかっていたが、今回の発見で百済寺跡北門まで繋がって造られている確実性がより高まった。
- ★ 路面の幅は調査区では2mほどに留まるが、百済寺跡の伽藍南北中軸線を手掛かりにすると約12m（約4丈）あると推定され、この規模は平安京の小路に匹敵する。また、街路の西側には同時代の掘立柱建物を配する宅地が整備されていたことも判明し、平城京などの都のように条坊制が採用されていたことが分かる。
- ★ 今回発見した街路とほぼ同じ位置で現在の道路も設定されており、古代都市の区画が現在の街に踏襲されていることがより明瞭となった。
- ★ 京都府立大学・菱田哲郎教授（日本考古学）は「禁野本町遺跡では碁盤目状に道路が配され、一定の計画性をもって古代に都市が造られていたことが明らかになっている。今回の成果により、南方の百済寺跡との間で中心軸になる道路が発見され、この都市計画の起点が百済寺であったことが確実になり、その造営者である百済王氏によることがはっきりとしてきた。都城や国府を除くと、このような都市計画は異例であり、ここを本拠地とした百済王氏の個性として評価できる」と話す。
（菱田哲郎教授の連絡先：研究室 075-703-5264、携帯電話 090-1676-7249）
- ★ 12月1日～17日に「第三回枚方宿まちかど歴史展示」を開催し、その中の一つとして12月10日に岡本町会館（岡本町10-9）で写真や出土遺物等の調査の成果を展示する。

<お問い合わせ>

観光にぎわい部 文化財課 ☎：072-848-7712 FAX：072-848-7712

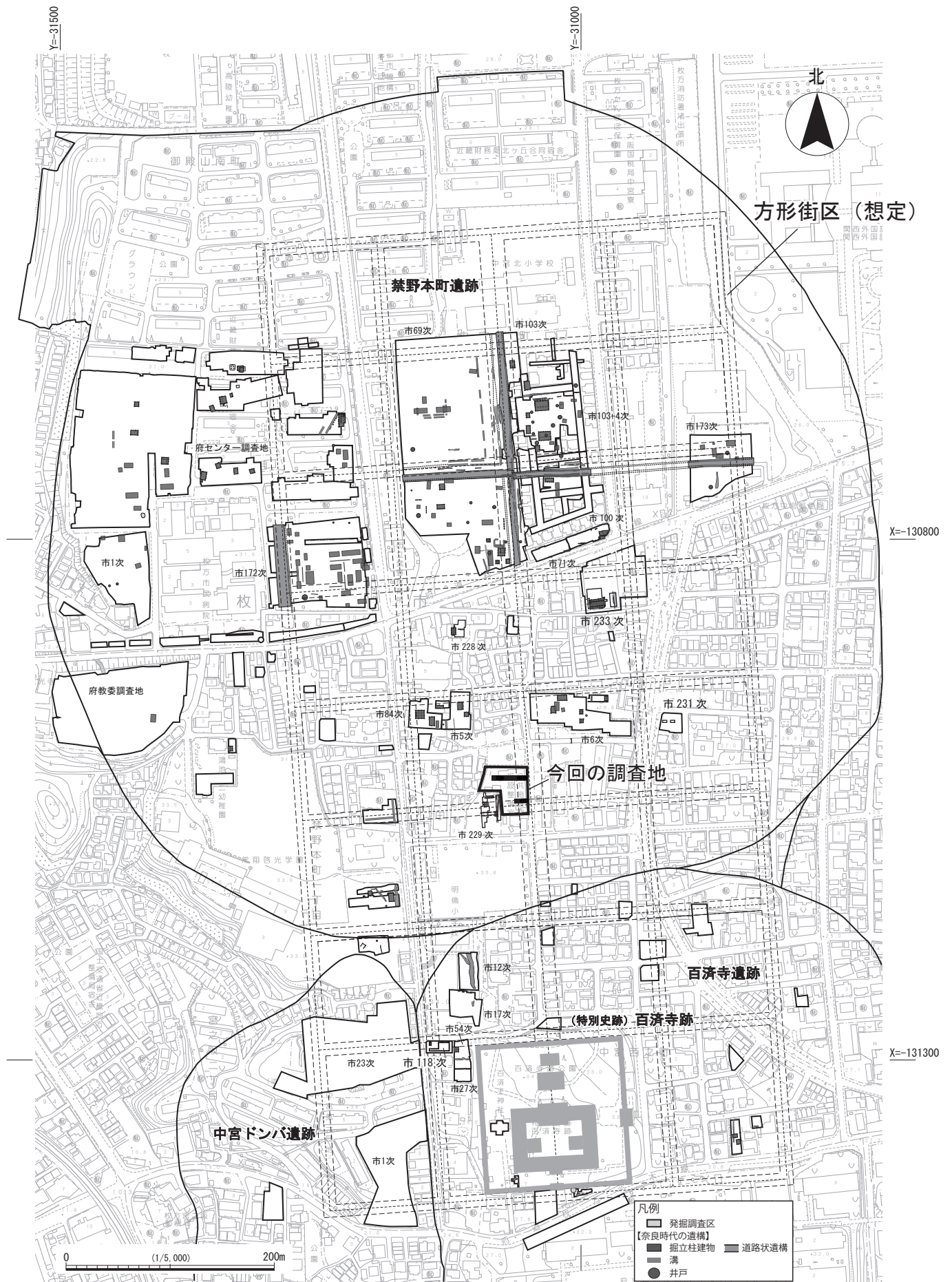


図1 百濟寺跡・禁野本町遺跡を中心とした方形街区の復元図と今回の調査地



写真 1 調査地と百済寺跡の遠景写真（北から撮影）



写真 2 調査地から京都方面を望む（南から撮影）



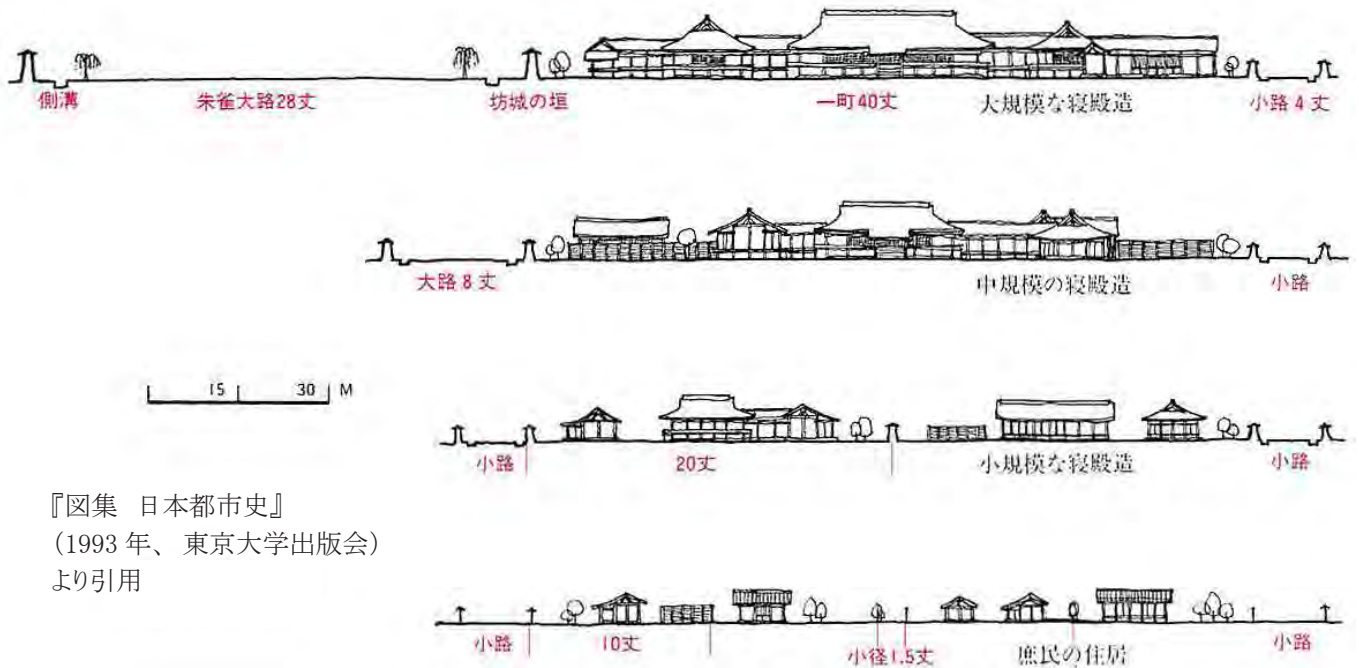
写真 3 今回の調査で見つかった南北街路の路面と西側溝（北発掘区(1tr)、南から撮影）



写真 4 今回の調査で見つかった南北街路の路面と西側溝（南発掘区(2tr)、南から撮影）



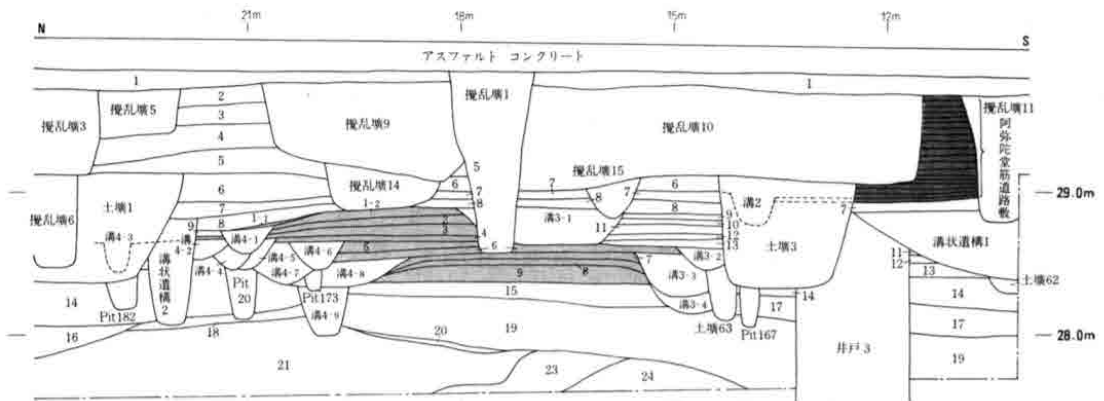
写真 5 南北街路西側の掘立柱建物等から成る宅地（北発掘区(1tr)、西から撮影）



『図集 日本都市史』
(1993年、東京大学出版会)
より引用

↑ 都（平安京）の街路と宅地

↓ 平安京北小路の路面の断面図・写真



烏丸線の調査
1977年
(東本願寺前)



文化財を市長が巡る
ブラタカシ

動画は市公式YouTube
からご覧ください！



もしかして
あのテレビ番組
意識してません？

市長、どうして
サングラス
なんですか？

枚方市長
伏見隆

文化財課
井戸 竜太

文化財を
見て歩くときは
いつもこれ
なんですよ。

広報プロモーション課
本田 美幸

枚方に

古代都市!?

く だ ら で ら あ と
百濟寺跡の謎に迫る



宮之阪駅から東に徒歩約10分

今 から約1250年前、枚方の地に平城京のような碁盤の目をした古代都市があったことをご存知ですか？今回の特集では文化財課職員の内、伏見隆市長が某人気テレビ番組風に、中宮・禁野をぶら歩き。近年の発掘調査で明らかになってきた「百濟寺跡」と「禁野本町遺跡」の謎に迫ります。

文化財課 ☎ 841・1411、
FAX 841・1278



百濟寺跡といえ、大阪府初の**特別史跡**。
本田さん、百濟寺くだらのこにきしを建てた**百濟王氏**は知っていますか？

国が減び帰れなくなった百濟王一族の子孫

百濟王氏とは、7世紀後半に滅んだ朝鮮半島の国「百濟」の王族の末えいです（下図参照）。国が減んだあと帰れなくなった王子・禅広らを祖先とする一族で、朝廷に仕え難波（大阪市東住吉区・生野区付近）に住んでいました。8世紀後半に枚方の中宮付近に移り住んだと考えられています。

奈良の大仏建立で黄金を献上し大出世

陸奥国（宮城・福島県など）で国司を務めていた百濟王敬福は東大寺の大仏建立用に、黄金900両を聖武天皇に献上。喜んだ天皇は敬福を7階級特進させました。枚方・交野周辺も治める河内守に

中宮に移り住んだ王族の末えい

鍵を握るのは

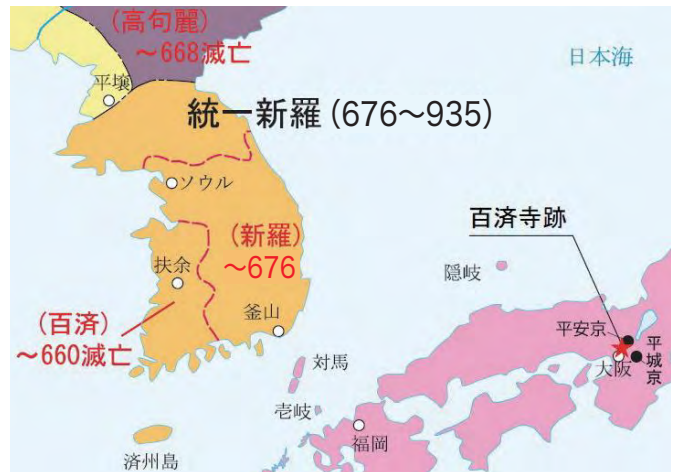
なった敬福はなぜ河内の北部にある枚方に移住したのでしょうか。古代史と繋がる歴史の秘密があります。

2度の遷都を行った桓武天皇と深いつながり

敬福の活躍で名声を上げた百濟王氏。その後も敬福の孫の明信が桓武天皇の側近である女官長となるなど上級官人を多数輩出。桓武天皇は母親が百濟系氏族の「和氏」出身だったこともあり、「百濟王らは朕の外戚」と言うほど信頼を寄せていました。文献には桓武天皇がたびたび枚方がある交野郡で鷹狩りや天神を祭る儀式を行った記録が残されています。

確か奈良時代後半に枚方に移り住んだと言っていることは知っています。でも、それ以上のことはあんまり…。一体どんな人たちだったんでしょう？

古代の朝鮮半島と日本（倭）



赤字は7世紀の国名、赤点線はその国境線

井戸 竜太 プロフィール

東京都出身。日本史の謎を解明しようと奈良の大学で考古学を学ぶ中で枚方の文化財的価値に注目。平成28年、枚方市に入職した。「文化財調査は市民の皆さんの協力があってこそ。成果を分かりやすく多くの人に伝えたい」と熱く語る。

当時、国内で最上級の氏族だったんです！

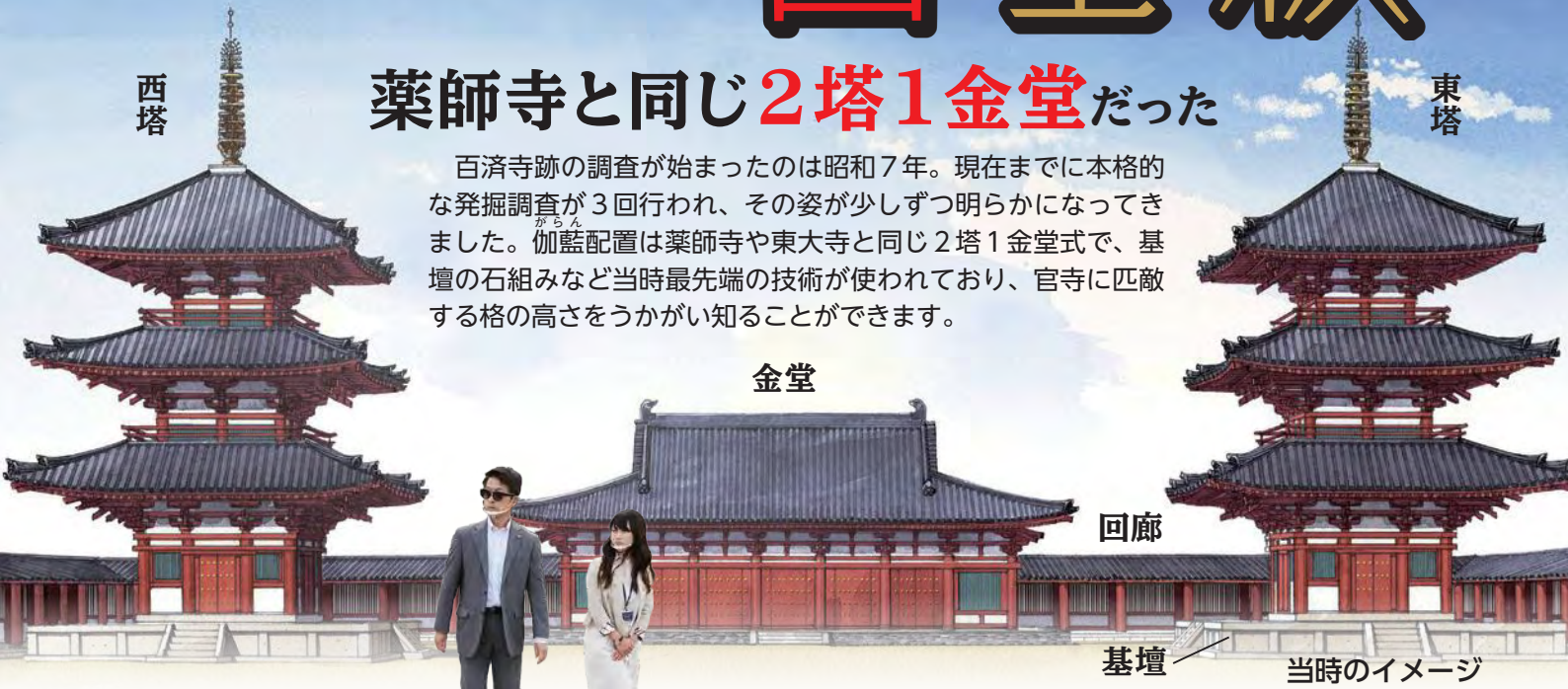
なんと! 百済寺跡は 国宝級

西塔

薬師寺と同じ2塔1金堂だった

東塔

百済寺跡の調査が始まったのは昭和7年。現在までに本格的な発掘調査が3回行われ、その姿が少しずつ明らかになってきました。伽藍配置は薬師寺や東大寺と同じ2塔1金堂式で、基壇の石組みなど当時最先端の技術が使われており、官寺に匹敵する格の高さをうかがい知ることができます。



回廊

基壇

当時のイメージ



常翔啓光学園

北西に
約160メートル

この先に道が…?

百済寺跡は昭和42年、日本で初めて史跡公園に。現在、令和5年度の完成を目指して再整備を進めています。東塔は当時の基壇を再現する一方、西塔は礎石をそのまま残すことで往時をしのばせる工夫が凝らされています。

実は北門から道が延び、まちが広がっていたんです！その痕跡が常翔啓光学園に残っています！



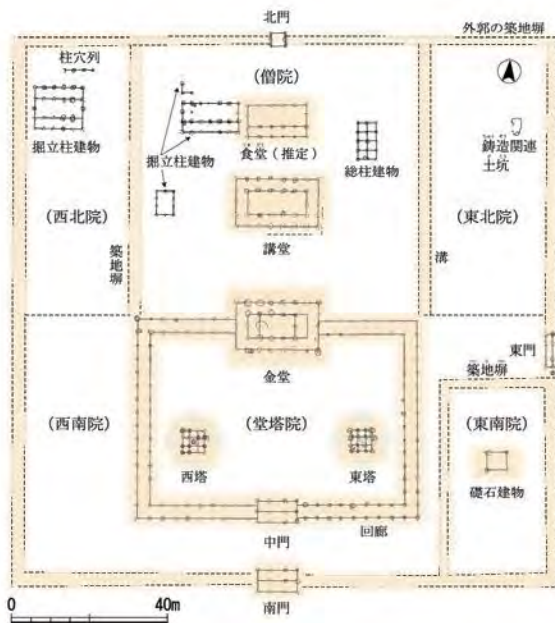
▼西塔側に残る約1250年前の礎石



井戸「特別史跡といってもピンと来ないと思いますが、遺跡の中の「国宝」に当たるんです。これが枚方にあるってスゴいことなんですよ！建設当時の礎石に触れてみましょう！」

タカシ「これが塔の柱を支えていたんですね〜。」

本田「古代にタイムスリップしてしまいそうです。」



塔を支える基壇には生駒山系の石が使われていたようです。礎石の大きさや位置から高さ約25メートルの三重の塔だったと考えられています。



▲西南院があった百済王神社から西を見ると崖に。交野台地の隆起で大きく発達した河岸段丘で「交通の要でもあった淀川が一望できた」と井戸さん。

住居の柱

8世紀後半ごろこの場所に建っていた「掘立柱建物」と呼ばれる住居の柱跡をタイルで再現。柱跡を結びと2間×4間（約4.8m×7.8m）になり大きな建物があったことが分かります。

常翔啓光学園
中学校・高等学校

ミュージズ
ギャラリー
(禁野本町1)

井戸

直径約1.5m、深さは推定5m以上の井戸が発掘。生活用水として使用していたと考えられています。丘の上で水脈を当て、大きな井戸を作ることができるのは高度な土木技術や知識を持っていた証と言えます。

校舎の下に眠る 遺構が教室に



歴史を語り継ぐのは教育機関の責務

校内に遺跡が見つかったのは9年前、新校舎の建設現場でした。遺跡は発掘調査が終わると埋めてしまうため、教育機関の責務として「地域の歴史を語り継がなければいけない」と思い、遺跡があった場所がわかるように新校舎にデザイン化しました。

▶発掘調査で出土した土器を展示。



常翔啓光学園 中学校・高等学校
吉村仁志 校長先生



▲ミュージズギャラリー

学校の住所でもある「禁野」の由来は、かつてこの辺りには天皇の狩猟場があり一般の民の狩りが禁じられたためと言われています。この地の歴史を「教科書の中で起こったこと」ではなく、とても身近なものとして生徒たちに感じてもらいたいですね。



▲ミュージズギャラリー建設現場の発掘調査（平成28年）

常翔啓光学園中学校・高等学校の調査は平成21年・28年の2回実施しました。50cm〜80cmの地下に奈良時代の地面が埋まっています。掘立柱建物や井戸、溝の跡など宅地の跡を発見。これらは百済寺やそこから延びる道とほぼ同じ方位をとっており、百済王氏が計画的にまちづくりを行ったものと考えています。それを裏付ける遺跡がさらに他の場所で見つかっているんです。次はそこへ！

百済王氏による 計画的なまちづくり



▲ミュージズギャラリーにあるパネルを前に説明する井戸さん。

まるで平城京！

碁盤の目のまちが眠っている



禁野本町遺跡公園
掘立柱建物の柱や井戸のあった場所が再現されています。



掘立柱建物の復元イメージ

百済寺との関わりが深く、一体的に考える必要がありますね。

これが百済王氏らによる古代都市なんですね！

きんやほんまち 禁野本町遺跡

百済寺跡から北に広がる奈良時代～平安時代中期の遺跡。これまで230回に渡る数多くの発掘調査を行い、各所で建物や井戸、道路などの跡が多く見つかっています。街区と百済寺の方位などの共通性の高さから、百済寺を基点に平城京のような方形街区(碁盤の目のように敷かれた道路で形づくられたまち)が形成されていたのではないかと考えられています。



手掛かり
1

十字路の先に 百済寺北門

平成13年～14年、中宮北町の住宅開発に伴う発掘調査で東西南北に走る幅約6mの十字路(地図上の★印)を発見。南側をまっすぐ延ばすと百済寺北門と直結し、長さは古代の土地区画の単位「町(約110m)」のちょうど5倍に。「都のような碁盤の目のまちがあったのでは?」と本格的な調査が始まるきっかけになりました。



住宅街に古代の十字路が!

手掛かり
3

正倉院の宝物と同じ! 奈良三彩の壺

「三彩」とは唐で盛んに作られた高級焼物のこと。日本では釉薬が美しい「奈良三彩」が有名で、昭和61年に保健センター建設用地で発見されました。東大寺の正倉院に残った奈良三彩の壺に類品が見られます。百済寺がこうした有力寺院と肩を並べる存在であったことを物語っています。



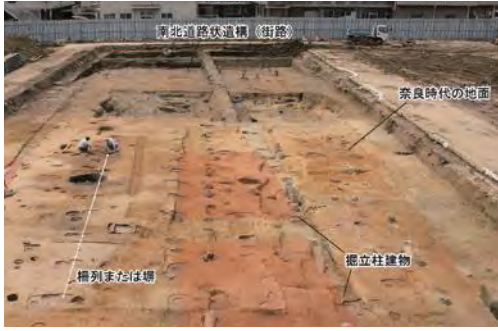
▲この壺は今なら輝きプラザ2階で見ることができます!(第4火曜 休所)

古代都市を考える4つの手掛かり

手掛かり
2

建物・道路が 同じ向き

十字路跡の発見後、想定する方形街区を裏付けるような道路や建物の跡が見つっています。平成22年～23年の市立ひらかた病院(旧枚方市民病院)建て替えに伴う発掘調査では、4700㎡にも及ぶ宅地跡から約70棟もの掘立柱建物跡を発見(写真)。そのほとんどが街区の方位と同じ向きをとっていました。



▲奈良時代の終わりから約200年間まちが続いていました。

手掛かり
4

桓武朝廷とつながり? もっかん 木簡も出土

十字路を発見した場所の近くでは文字が書かれた木の札「木簡」とその削りくずが見つかりました。真ん中の木簡には律令体制下で郡司の長官を意味する「大領」の字が。貴族や役人の邸宅であった可能性が高いですが、自立的に字を覚えた人々が早くから多くなる日本の国の特色を示しているのか、興味が尽きません。



▲出土した木簡



古代の謎に切り込む 鍵 きっと枚方に

井 桓武天皇は、奈良にあった都(平城京)を長岡京、そして平安京へと北の山城に移し、時代を大きく転換させました。天皇とかかわりが深い百済王氏が造った百済寺や禁野本町遺跡はその大きな歴史の画期と関係が深いようです。古代史は謎が多い。そこに切り込む「鍵」は枚方にも数多くあります。調査を続け、古代の扉を一つ一つ開いていきます。

本 「古代都市」の謎が全てとける日が楽しみですね!

タ カシ 百済寺を中心に、当時の日本で都くらいしか例のない最先端の都市整備がなされていたんですね。感動しました。これほどの壮大な歴史が私たちの足元に眠っていることを市民の皆さんに伝えていかなければ。本田さん、PRよろしくお願いますね。

本 はい、頑張ります!



第三回

枚方宿
まちかど
歴史展示

江戸時代の枚方宿は、東海道品川宿から数えて56番目の宿場町として、また京都の伏見と大阪の八軒家浜を往来する三十石船が寄る停泊地として、行き交う人々で賑わいました。「枚方宿まちかど歴史展示」は、地域の歴史や文化に親しんでいただくために、地元住民団体、観光協会、市の3者連携で開催するイベントです。

今回も、現在の「枚方宿」の店や家に伝わる昔の道具や、淀川で採集されたくらわんか茶碗を、市文化財課と鍵屋資料館学芸員の解説文付きで展示します。街道をぶらり歩きながら、ごゆっくりお楽しみください。

2023年

12月1日(金) → 12月17日(日)

お店の歴史を物語る資料や枚方市所蔵のくらわんか茶碗を展示

北村みそ本家 呼人堂 八幡屋 絵本カフェ cocoru 枚方凍氷 計10店舗
くらわんかギャラリー 塩熊商店 Repos de midi 遊間 mani cafe

＼街道沿いに、発掘調査の紹介パネルを掲示します／

* 展示各店舗の開店時間や位置・パネル掲示場所などの詳細は裏面をご覧ください *

枚方宿のお店で使われていた菓子木型を展示

市立枚方宿鍵屋資料館

枚方宿ゆかりの発掘資料などを展示

岡本町会館

12月10日(日) 10:00 ~ 16:00

12月10日(日)は
枚方宿
くらわんか五六市

主催

枚方宿まちづくり協議会
枚方市
枚方文化観光協会
(市立枚方宿鍵屋資料館)

連絡先

枚方市観光にぎわい部文化財課
TEL 072-841-1411
FAX 072-841-1278

展示協力店 *展示物は、
枠内に記載。

① 北村みそ本家 **こうじぶた**
水/木/金/土 10:00 ~ 17:00
(月・火・日・祝日は定休)
※12月10日(日)は、くらわんか五六市開催のため、10:00 ~ 16:00 で営業。

② 呼人堂 **きんぎょくがんの型**
月/水/木/金/土/日
9:00 ~ 17:00 (火曜日は定休)

③ 八幡屋 **昔の写真**
月/火/水/木/金/土
9:00 ~ 19:30 (日曜日は定休)
※12月10日(日)は、くらわんか五六市開催のため営業、13日(水)は振替休日。

④ 絵本カフェ cocoru **昔の写真**
火/水/木/金 12:00 ~ 18:00
土/祝 12:00 ~ 17:00
(日・月は定休)
※そのほか臨時休業日・貸切日あり。
※公式Instagram「cocoru312」で、毎月のスケジュールを公開。
※12月10日(日)は、くらわんか五六市開催のため、10:00 ~ 16:00 で営業。

⑤ 枚方凍氷 **チンチョウ(氷ばさみ)**
月/火/木/金/土/日
10:00 ~ 17:30 (水曜日は定休)

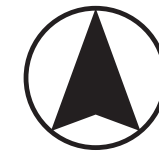
⑥ くらわんかギャラリー **蒸気船時刻表**
毎日 11:00 ~ 17:00 (不定休)
※12月10日(日)は、くらわんか五六市開催のため、営業。

⑦ 塩熊商店 **わり包装の茶碗**
毎日 10:30 ~ 17:00
(第1・3日曜日は定休、土曜日は不定休)

⑧ Repos de midi **建物解説パネル**
水/木/金/土/日
11:00 ~ 16:00 (月・火は定休)
建物の歴史や見どころを解説!

⑨ 遊間 **淀川の鶴飼関係資料**
金/土 11:00 ~ 16:00
(月・火・水・木・日は定休)
※12月10日(日)は、くらわんか五六市開催のため、営業。

⑩ mani cafe **くらわんか茶碗**
月/火/水/木/金/土
11:00 ~ 18:00 (日・祝は定休)
※12月10日(日)は、くらわんか五六市開催のため、営業。



お店や周辺の写真
昔の写真を展示!

お店の歴史を解説!
昔の写真も展示!

枚方宿中がりの
発掘資料などを展示!

菓子木型

★ 岡本町会館
12月10日(日) 10:00 ~ 16:00

★ 市立枚方宿鍵屋資料館
月/水/木/金/土/日
9:30 ~ 17:00 入館受付は 16:30 まで
(火曜日は休館)
入館料: 一般 200 円、中学生以下 無料

枚方宿まちかど歴史展示マップ